•腎臓病のご相談を受けて感じること

老犬が多くなってきて腎臓病のご相談が多くなりました。ルルのことがあってからご相談の際には血液検査の数値や獣医さんからどんな指導や処置を受けたかなど、細かくお聞きしていますが、同じような数値でも獣医さんによって温度差があることを感じます。BUNやクレアチニンは正常値でSDMAが基準値を少し超えている程度で療法食を勧める先生もいれば、BUNが60以上でも様子をみましょうというだけの先生もいます。一方、今の数値がどのような状態で今後どのようなことに気をつけていけば良いかなど丁寧に伝えている先生もいます。

私達は獣医ではないので経験上や栄養学上のことしかお伝え出来ませんが、「看板犬達を通して経験してきたことを参考にして頂ければ」という思いで対応させて頂いております。相談は無料ですのでお気軽にご相談下さい。

「数値は上がってきたけど元気だから相談していなかった」という方もたまにいらっしゃいますが、元気な時点で"今から出来ること"を聞くように、お気軽にご相談下さいね★

•腎臓病の食事

療法食の場合、タンパク質を少なくする分、脂質が高いものが多いです。脂質が多い食事は膵臓に負担をかけ、膵炎にる可能性も有りますのであまりにも脂質の高いフードは避けましょう。

酵母　カロリー345kcal/100g　タンパク質23.0%以上、脂質15.0%以上、繊維5.0%以下、粗灰分3.5%以下、水分10%以下　【与え方】　小型犬(3～5kg程度)の目安とし

↑DDフードの裏にもカロリーやタンパク質、脂質などが書かれています(DDフードの裏より一部抜粋)

•お薬の確認

お薬を処方されたらどんなお薬なのか確認して把握しておくことをお勧めします。ルルやジャズはお薬を飲んで食欲がなくなったことがあります。初めて飲むお薬は愛犬の様子に変化がないか、観察するよう心がけましょう。

•愛犬に合った食事を見つけるには?

2018年の健康診断で腎臓の数値が高くなっていることを発見してからジャズは4年経ちます。それ以来、**わんわん手帳**に記録しています。DDフード以外の食事も血液検査の数値を見ながら色々試しましたが、結局ジャズにとって一番数値が安定しているのが**DDフード**でした。食べない時は、DDフードの中で種類を変えたり、少しトッピングする時もあります。皮下補液や活性炭、リン吸着材と並行しながらサプリも与え、下がることはなくても上がらないようにコントロールしています。記録をしておくと食事に関しても把握しやすく、獣医さんに行ったときにも確実な情報を伝えられます。

看板犬も活用しています★
わんわん手帳(￥275)を是非ご活用下さい。

原因は様々。お気軽にご相談下さい。

どのご相談にもお電話で詳しい状況を伺いながら適切なアドバイスができるように心がけています。腎臓に問題のある子、また、老化に伴い予防をしていくには、基本的に下記のサプリの中からおすすめしています。状況によってサプリの優先順位が変わったり、併用をおすすめすることもございます。

かんじんかなめ

ペニクスノキタケ＆乳酸菌

ペットザイム

かんじんかなめ：シャンピニオンエキスが体内毒素の生成を抑制し、腎臓病の進行抑制を期待。

ペニクスノキタケ＆乳酸菌：学術誌に掲載されたペニクスノキタケに関する研究・・・腎臓の保護作用、慢性肝炎、脂肪肝、抗ガンの作用、動脈硬化の予防など。

ペットザイム：腎臓は血液をろ過し、不要なものを尿として排出する働きがあるので、血液が綺麗であれば腎臓の働きのサポートになります。

ご注意：掲載の「人間、ペット用サプリメント」・「ペット用食品」等は日本国の法律に従った食品で医薬品ではありません。

銀座DAXDACHS　Mail：staff@dachs.jp
TEL：03-3535-4772 / FAX：03-3535-4773